

孤独・孤立対策としてのつながりづくり
～官民・民民連携の取り組みとして～

地域密着型サードプレイスによる 「相談・参加・地域づくり」の一体的支援事業



NPO法人クラブしっきーず



クラブしっきーずは、文部科学省が策定したスポーツ基本計画に掲げられた『総合型地域スポーツクラブ』として2000年にスタート。スポーツやレクリエーション、文化活動などを通じ、『スポーツと福祉を融合したまちづくり』をテーマに、市内外で様々な事業を展開し、今年で24年目を迎えます。



みんなの「あったらいいな」をプログラム化し、気がつけば25を超える
多チャンネル型となり、いつもどこかで黄色いのぼりを目印に活動しています。



移転



地域住民のご理解や応援をいただき、2008年から空き店舗（花屋・薬局）を活用した『しっきーずステーション』を開設。コミュニティカフェの運営をスタートしました。

スポーツレクリエーションを通じた
多世代交流



食を通じた多世代交流

NPO 法人



放課後や長期休業期間の
居場所として



お泊まり会の夕食作り
(寝場所は2F洋室・和室)



2012年からの9年間、しききーずステーションを1,509日オープンし、
19,524人の参加がありました。コミュニティカフェの運営やお泊まり会など、
『場の持つ力』を、十二分に発揮していたときのコロナ禍でした。

しきずステーションの
庭で宿題をする小学生

形を変えながらも「まちに暮らす人とともにある」ことを追い求め、
いつも「今できること」を考え、アクションを起こす。
それは、暮らしの現場で日々繰り広げられる日常に寄り添うことでした。

小学校体育館を会場とした
多世代参加型の体力づくり



コロナ禍における自粛生活によるフレイルの進行、社会から孤立・孤独に悩む人の増加、人間関係の希薄化など、見えてきた課題に1つずつ丁寧に対応してきた取り組みが、2021年から現在まで続く『サードプレイス事業』です。

小学校体育館を会場とした
多世代参加型の体力づくり



中学校の駐車場を会場とした
早朝30分の体力づくり



お寺で太極拳（宝幢寺）



町内会館を会場とした
地域サロン



具体的には、

- ①小中学校の体育館や駐車場を会場とした多世代参加型（7歳～90歳代）の体力づくり
- ②屋外開放空間（お寺・神社・河川敷・公園）・町内会館を会場とした地域サロン
・放課後の居場所事業です。どなたでも・予約不要で参加できます。

【2021年度】394回実施 / 4,851人参加 【2022年度】412回実施 / 5,071人参加

宝幢寺マルシェ



こども・保護者・シニアさんで作った
御守りをマルシェで販売



行政・市社協主催の事業に
講師として参加



公民館主催事業に
講師として参加



地域住民が“来る”のを待つだけでなく、行政や市社協・地域団体主催の行事など、
地域で行われている様々な活動の場へ、しっきーずが“行く”ことも大切にしています。

ニュースの貼り替えを教える
“ますださん”（入院前）



こどもの体力づくりで運動指導



退院後は“ますださん”の
車イスを小学生が押して会場へ



「脳梗塞について」を
真剣に聞く小学生



2021年6月、“しっきーずの元気印”でもある法人理事長（愛称ますださん）が脳梗塞を発症。その後、半年間の入院・リハビリ生活を経て退院。（片麻痺が残ったが、訪問リハビリをしながら現場復帰）
「入院中に沢山のメッセージをいただき、“しっきーずに復帰したい”と励みになった。“待っていてくれる仲間がいる”“自分の居場所が地域にある”ことが、明日を生きる活力になっている」といいます。

地域密着型サードプレイスによる「相談・参加・地域づくり」の一体的支援事業(実施体制)

※取組みの概要

地域住民が主体となって運営する『総合型地域スポーツクラブ(NPO法人クラブしっきーず)』が、屋外開放空間(お寺・神社の境内等)や、小学校体育館・町内会館等を会場として、世代や障がいの有無を問わず、地域にぐらす全ての人とともに、スポーツやレクリエーション・文化活動をツールに『日常的な多世代交流』を行い、地域課題の解決をはかる事業。

【連携機関】
志木市立志木第三小学校
【役割】
会場提供・情報共有等

月曜日



多世代参加型の体力アップ事業

水曜日



放課後の異年齢スポーツ広場
(小中学生・高校生～40代の参加)

土日祝



世代や障がいの有無を問わない
ユニバーサルスポーツ広場

【連携機関】
宝幢寺
【役割】
会場提供・情報共有等

火曜日



①高齢者(独居・障がい・MCI)の健康づくり
②放課後の居場所づくり

【連携機関】
埼玉県庁
志木市役所
志木市社会福祉協議会
志木市生活支援体制整備事業
【役割】
情報共有
事業提案

情報共有

【連携機関】
行屋稲荷講
【役割】
会場提供・情報共有等

木曜日



①“どなたでも”対象の相談支援サロン
②放課後の居場所づくり

【連携機関】
町内会
【役割】
会場提供・情報共有等

金曜日



町内会館を会場とした地域サロン

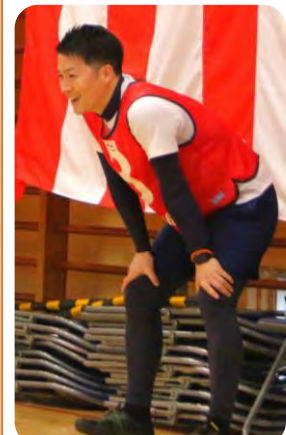


小学生の学習支援



どなたでも食堂

常に地域全体を
把握している



コーディネーター

しっきーずステーションを起点に
各会場へ事業の出前



人や情報が集まる
『しっきーずステーション』
(クラブハウス=活動の拠点・起点)

いつも地域の現場にいる
⇒いろいろなことに“気付く”
⇒事業内容もアップデート

多種多様なプログラムがあることで
一人ひとりに合った“心の居場所”が見つかる
⇒自己肯定感・有用感が高まる⇒心が上向く

地域にあるものや、地域にいる人の思いを
ファシリテートし、それをコーディネートする。
一人ひとりの悩みを皆で考え、思いを共有すること
で次の世代(福祉マインド)が育ち、活動が続く。